

私はこう思う

臨教審発足に思う

財団法人協和協会
常務理事兼事務局長

清原淳平



教育の荒廃が嘆かれ、その正常化が叫ばれてから久しい。それも問題が、単発的な青少年非行の域を越えて、家庭内暴力や学校内暴力の横行、あるいは精神構造異変を思わせる事件の続発を見るに及んで、事態は深刻となり、教育を根本的に見直すべしとする声が、日増しに高まってきている。

私どもの団体、すなわち、政財官学民各界の指導者クラスが集まり、思想・派閥などを超えて、真に日本の将来を考えよう、ということとで結集した(財)協和協会(岸信介会長)でも、「あらゆる改革の根底は教育にあり」との認識のもと、まず最初に内部に教育改革部会ができて、総理へ各種の要請書を出すなど活動してきたが、一昨年ごろから、事態はもはや部分の手直しでは足らず、抜本的改革が必要である、として昨年三月上旬、中曽根総理へ「教育の荒廃を是正すべく、内閣に権威ある調査会を設置して頂きたい要請」書を提出した。

その後、教育臨調(臨教審)設置の声が高まるに伴い、当協会教育改革部会でも、臨調設置を要請した以上、自らも抜本的改革案を用意すべしとして、昨年五月から八か月にわたり、毎月二〜三回の会合を開き、ついに昨年末、約一万五千字に及ぶ教育の抜本的改革案を仕上げ、今年の二月二日総理へ直接提出したのである。

そうした経緯もあって、私どもは、政府が臨教審を設置して作業にとりかかったことは、双手をあげて賛成するものであり、こうした教育荒廃の現況に立ち至った以上、その責任をなすり合うことなく、教師も父母も、また思想や党派を超えて、国民がこぞってこの大事業に参加すべきであると考える。

ただ、私どもは、臨教審が発足した今、気にかかることが、二、三あるので、率直にその危惧を述べ、世の参考に供したい。

その第一は、委員の人事構成である。選ばれた方々は、それぞれ人なみ優れた人々であるが、各種の諮問機関がそうであるように評論家の著名人が多いことである。教育改革の把握し、長年の研究がなければむずかしい性質の事柄だからである。

第二に、右と関連して、臨教審が内閣の諮問機関でありながら、文部省主導型と映ずる点である。教育改革はこれまでも中教審が手がけてきたが、各方面の努力にかかわらず現実が悪化しているからこそ、国を挙げて抜本的改革を計ろうとする点を忘れてはならない。

第三に、内閣の関係者や委員も、予め臨教審の活動に枠をはめたり、個人的な思いつきの発言を止め、真摯に取り組むことを要望したい。

第四に、臨教審を権威づける余り、他からの改革案が封殺されることがあってはならない。また、検討・審議が数年かかることを理由に、改革がただ先送りされることも困る。改革できることは逐次手をつけてもらいたい。

最後に、一般に改革というと目にも見える制度をいぢりたがるが、制度改革も必要とはいえず、今日の教育荒廃は、制度面よりも精神面により大きな問題があるのだから、一佛つくって魂入れずにならぬよう、この点はずっとも配慮してもらいたいものである。

以上のことから、臨教審必ずしも全能ならず、折角緒についた教育改革を実効あらしめるためにも、われわれ国民側も、臨教審まかせにせず、それぞれの立場から教育改革の声をあげてゆくことが、大切といえよう。